



●スタンダードクラスサポート講座

東海支部で、東京商工会議所主催のカラーコーディネーター検定「スタンダードクラス」を受験する人をサポートする講座（全4回）が、オンラインで開催されます。

第1回 8月17日（土）10:00～12:00 「色を自在に操る方法」

第2回 8月31日（土）10:00～12:00 「きれいな配色を作る」

第3回 9月14日（土）10:00～12:00 「背景色を上手に使って色の見えを変えてみよう、色で売り上げをアップするために」

第4回 9月28日（土）10:00～12:00 「色を美しく見せる光のマジック」

講師は、日本色彩学会東海支部役員が担当されます。

参加申込：定員：30名。定員が設けられておりますのでお早めに学会のホームページか、下記のフォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/BD2JJZAKFpN8TnBz9>

申込締切：2024年8月10日（土）

参加費：日本色彩学会会員：7,500円
一般：15,000円

テキスト、振込先や問い合わせ先などは、学会のホームページを参照してください。

（学会メールニュース No.519 より引用）

●井原西鶴の世間胸算用から

「世間胸算用」は没年の前年に当たる西鶴五十一歳の作品である。

この作品の中の、男性の着物、装身具、持ち物などの色名としては、「猩々皮（緋）の敷物」、「黒い羽織」「白柄の脇差」、「玉むし色の羽織」、「ぎんすすたけの羽織」、「白小袖」などが見られて、随分派手な光り物の羽織が登場する。

女性の着物、装身具、持ち物などの色名には、「本紅（ほんもみ）の二枚がさね」、「白ぬめの足袋」、「墨染の麻衣」、「やなぎすすたけ」、「もえぎ色に」、「うらはうす紅にして」、「黄がら茶」などの色名表現が使われている。

人の肌色表現には、「赤面して」、「かほ赤くして」、「首すじの白い」、「かかも色じろ」などの表現が見られる。

自然描写では「足もとの赤いうち」、「雲の黒き」などの表現がある。

その他の表現では、「黒米」、「赤米」、「渋墨の色付板」、「紅ぎぬにて張りぬきにして」、「白紙人形」、「あたまの黒いねずみ」、「青苔」、「青竹」、「朱雀の細道」、「黒白の鬼」、「赤いわし」、「赤ねの染入」、「しら土の軒」、「墨絵」、「白がねは雪のごとし」などの色表現が見られる。

（永田泰弘）

●大辞泉ひろいよみ 65 ーく

黒油：白髪染に用いた黒色の鬢付け油。

くろあり：黒蟻。黒色の蟻の俗称。クロオオアリ、クロヤマアリなど。

黒い：墨のような色をしている。黒みがかった。汚れて黒ずんでいる。犯罪・不正の疑いが強い。邪悪である。不吉である。その道に熟練している。くろうとである。面黒い。真っ黒い。薄黒い。か黒い。どす黒い。腹黒い。

黒石：黒い色の石。黒の碁石。

黒糸：黒い色の糸。黒糸威の略。

黒糸威：鎧の威の一。黒糸でつづり合わせたもの。

黒漆：くろうるし。黒色の漆。古くは透き漆に油煙などを混ぜてつくったが、現代では鉄分や鉄の化合物を用いてつくる。

黒雲母：雲母の一。カリウム・鉄・マグネシウム・アルミニウムを含むケイ酸塩鉱物。

黒・暗褐・暗緑色などの六角板状結晶。

黒帯：柔道・空手などで、有段者が締める黒色の帯。また、その帯を締めている者。

くろがい：「くろがき」の音変化。

くろがき：黒柿。カキノキ科の常緑高木。台湾・フィリピンなどに分布。心材は暗紫色で堅く、黒檀同様に建築・工芸用に用いられる。台湾黒檀。

（永田泰弘）